

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

祝 厚生労働大臣表彰・地域貢献賞受賞

令和5年6月24日(土)、ホテル雅叙園東京にて開催された日本臨床衛生検査技師会創立70周年・法人化60周年記念式典において、当会の副会長猪浦一人氏、副会長松岡優氏、元常務理事奈良豊氏が臨床衛生検査業務功労者として厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。また、日本臨床衛生検査技師会の地域貢献賞を篠塚洋明氏が受賞いたしました。

厚生労働大臣表彰は臨床検査の普及と発展に顕著に貢献した臨床検査技師に贈られるもので、永年にわたり臨床衛生検査業務を通じて、国民医療の向上に寄与した功績が評価されたものです。今回、全国の臨床検査技師80名が受賞されました。

また、地域貢献賞は各支部において、長年に亘り臨床検査を通じて住民の健康保持、増進に寄与したと認められた方に対する表彰です。

以下、各受賞者の喜びの声をご紹介します。受賞者の皆様このたびは誠にありがとうございました。

厚生労働大臣表彰受賞者の喜びの声

埼玉県済生会加須病院

猪浦 一人

この度は、埼玉県臨床検査技師会の推薦で、厚生労働大臣表彰の栄に浴してまいりました。受賞にあたりご推薦いただきました、神山会長をはじめとする埼玉県臨床検査技師会理事の皆様、それと功績調書作成にご尽力いただいた事務局の皆様には厚く感謝申し上げます。

この賞をいただけたのは、1994年に一般検査研究班在籍し、一般検査研究班長、埼玉県医師会精度管理委員、そして埼臨技理事として今日まで29年間埼臨技活動に携わってきたからと存じます。この29年間携わってこれたのも、先輩技師からのご指導ご鞭撻、また技師会という場に送り出してくれた病院スタッフのお陰とっております。あらためて感謝を申し上げます。

また今回受賞した、奈良豊氏、松岡優氏は一般検査研究班員として活動してきた仲間と、ともに受賞できたこと、とても嬉しく思っております。

最後に公益社団法人埼玉県臨床検査技師会ならびに会員の皆様のさらなる発展を祈念いたしまして御礼の挨拶とさせていただきます。

埼玉医科大学総合医療センター

奈良 豊

この度、厚生労働大臣表彰という名誉ある賞を受賞させていただき、身に余る光栄です。ご推薦をいただきました神山清志会長をはじめとする埼玉県臨床検査技師会の理事の皆様がこの場をお借りして御礼を申し上げます。

今回、微力ではありますが、埼臨技の理事として在籍していたときに技師会活動を通じて公衆衛生事業活動が評価していただけたものと考えております。

この賞は埼玉県の臨床検査技師を代表していただいたものと日々精進していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

埼玉医科大学病院

松岡 優

令和5年6月24日(土)日本臨床検査技師会70周年・法人化60周年記念式典に合わせて行われた授賞式で、厚生労働大臣表彰という栄えある表彰をいただきました。

この賞は臨床検査の普及と発展に貢献した臨床検査技師に贈られ、長年にわたり臨床衛生検査業務を通じて、国民医療の向上に寄与した功績が評価されたものです。

言い換えれば埼臨技での技師会活動が認められての受賞と認識しています。

私の技師会活動のスタートは一般検査研究班からでした。研究班活動は若い力がみなぎっており、仕事が終わってからの他施設の方とのディスカッションや情報交換は非常に刺激的でした。その後、理事職を経験しここでも諸先輩方に様々なことを教えていただき、成長させていただきました。振り返ってみると私の臨床検査技師人生は埼臨技ともに歩んできました。

今回の受賞に際し、推薦をいただきました神山会長をはじめ理事の皆様、技師会活動を支えてくれた職場の同僚のおかげと改めて深謝いたします。

少しでも埼臨技に恩返しできるよう、この賞に恥じないようにこれからも精進してまいります。

この度は本当にありがとうございました。



左より猪浦氏、奈良氏、神山会長、松岡氏

地域貢献賞受賞者の喜びの声

一般社団法人北埼玉医師会立メディカルセンター

篠塚 洋明

この度は、日本臨床衛生検査技師会の地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。

受賞に際しまして、ご推薦いただきました神山会長をはじめ埼玉県臨床検査技師会の皆様方には、そのご支援による賜物であることを心より厚く御礼申し上げます。

また、これまで研究班活動や精度管理調査など埼玉県の技師会活動の一端ではありますが微力ながら協力できたことと、その活動を一緒に支えてくださった方々に対しても、深く感謝を申し上げます。

私の職場である医師会センターは、医師会共同利用施設として全国に160施設以上あり、埼玉県には6施設あります。そこでは地域住民に対する検査・健診事業を行政と二人三脚で取り組み、その地域の健康増進のために活動しております。

地域貢献賞とは、「長年に亘り臨床検査を通じて住民の健康保持、増進に寄与したと認められた方に対する表彰」であるとのことで、今回の受賞はそのような同じ立場の検査技師たちの代表としていただいたものだとも思い、改めて御礼を申し上げる次第です。

最後に、埼玉県臨床検査技師会の益々の発展と皆様のご活躍を祈念しております。

ありがとうございました。



左より2人目篠塚氏、5人目宮島会長

第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 令和5年12月3日(日)
会 場 : 大宮ソニックシティ
テ ー マ : Let's connect!
サブテーマ : 臨床検査技師になってよかった
～ 人との出会い・検査との出会い～



第51回 埼玉県医学検査学会
会計部長 柿沼 智史

第51回埼玉県医学検査学会の会計を務めさせていただきます、川口市立医療センターの柿沼と申します。先月一般演題の登録が締め切りとなり、学会当日まで残り4ヶ月ほどとなりました。実行委員会一同、各企画をはじめ鋭意準備を進めています。

本学会も大宮ソニックシティでの開催となります。参加費は埼臨技会員：2,000円、賛助会員：2,000円、非会員：5,000円、学生：無料です。第50回学会と同様にPeatix（ピーティックス）を利用した事前参加登録方式で、ランチョンセミナーの申し込みも同時に行えます。さらに、参加費の支払いもクレジットカードなどのオンライン決済で手続きできます。その他詳細につきましてはホームページ等にてご案内します。学会当日の受付も可能ですが、混雑の緩和やスムーズな足運びのためにも、ぜひ事前参加登録をお願いいたします。皆様と素晴らしい学会を共有できることを楽しみにしております。

第51回 埼玉県医学検査学会
運営部 前田 友子

第51回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当しております、越谷市立病院の前田友子と申します。

先日、会場となる大宮ソニックシティに見学に行っていました。コロナ禍明けの今年はこの春リニューアルした小ホールも使用しますので、小ホールを中心に各会場の照明・音響設備や備品、搬送経路等の確認をしました。ホールへの搬送経路は思いのほか狭く、階段もあることが分かり課題も見えてきました。学会では一般演題は勿論ですが、学会企画講演、市民公開講演、青年部企画など・様々な企画があります。Let's connect! をテーマに12月3日は1日中、学会に浸っていただけるよう実行委員一丸となって活動しています。学会企画では辨野腸内フローラ研究所理事長の辨野義巳先生、埼玉県警察本部 刑事部科学捜査研究所の谷田部和子先生、市民公開講演では日本製鉄かずさマジック監督（元WBC日本代表）の渡辺俊介氏、さらには山村国際高等学校ダンス部の皆さんをお招きします。市民公開講演前には一般の方にも易しい「働く細胞クイズ」を用意しています。ご家族での参加も大歓迎です。多くの方に「出会い」を楽しんでいただけたらと思っています。ほかにも青年部委員、研究班員、企業の方々にご協力いただき、参加型の企画を準備しています。お招きする先生方のお名前や参加型と聞いて、どんな企画？と興味を持っていただきましたら、今後の埼臨技だよりや学会ホームページ、学会公式LINEをご覧ください。

盛りだくさんの企画が円滑に進行できるよう運営部として尽力してまいります。今後ともご協力お願い申し上げます。

研究班研修会報告

テーマ **脳波検査を学ぶ！ ～ 発作時の対応からレポート作成～**

主催 生理検査研究班

実施日時：2023年5月12日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 906号室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：小児の脳波の特徴と発作時の対応

講 師 1：天野 直樹（独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター）

講 演 2：成人脳波とレポート作成

講 師 2：工藤 淳子（北里大学メディカルセンター）

参加人数：会員60名 非会員1名

出席した研究班班員：南雲涼太 瀧沢義教 家城正和 工藤淳子 小宮山英幸 武藤由里子

研修内容の概要・感想など

今回は「脳波検査を学ぶ！～発作時の対応からレポート作成～」をテーマに研修会を開催した。

講演1は天野氏から「小児脳波の特徴と発作時の対応」についての講演であった。小児は症状や、波形にもさまざまな特徴があり、ときには難解を求められる波形である。今回は小児脳波検査時に多く見られる症状、症例についての内容であった。質問事項として、どの病院も脳波検査中に症状が出たときの対応マニュアルはあるのか？その対応方法について質問が出たが、病院によって違うのでマニュアル作成が難しいこと、あれ？と思った症状などが出たときはパニックにならず人を呼ぶ等、検査としては基本だが改めて言ってもらうことでもう一度考えることができた研修であった。

講演2は工藤氏から「成人脳波とレポート作成」についての講演であった。どの検査も「レポートは分かりやすい」が基本である。しかし脳波に特に詳しくない医師もいる。そこをどうやって臨床検査技師が解りやすく、そして治療につなげることができるか、レポートの作成ポイントを中心とした内容であった。例えば異常所見がある場合は、一言治療につなげる文章を記載する。また、何も記載することがないnormalの場合は、きちんとnormalであることを伝えるなど、基本だが基本を忘れずに記載することを学んだ。

今回の研修会は「脳波検査を学ぶ！」というタイトル通り講師2人とも症例・症状等に非常に熟知されていた。講義や質問に答えている中で、沢山の本を読まれて勉強されていることなどが垣間見られた。生理機能検査はどうしてもエコー検査に重きを置く病院が多く、脳波検査を辞めてしまう病院もあると伺っている。しかし、てんかんなどの脳活動状態は、CTやMRI等では把握できないため脳波検査が有用である。今回の勉強会は60名の定員で、現地開催であるにもかかわらず会場は満員であった。それだけ、脳波検査に興味を持つ技師も多い。勉強会の参加を機会に是非講師の方から紹介されていた本や病院にある本などを読んで勉強したいと思った。

（文責：武藤由里子）

テーマ **知らなきゃ損!?! Part12 ~ 新人さん必見! 標本作製と細胞診染色 ~**

主催 細胞検査研究班

実施日時: 2023年5月15日 18時00分~19時00分

会 場: Web開催 教科・点数: 専門教科-20点

講 演 1: 検体処理と標本作製のまとめ

講 師 1: 小川 弘美 (社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院)

講 演 2: 細胞診染色の【いろは】

講 師 2: 野本 伊織 (埼玉県済生会川口総合病院)

参加人数: 会員197名

出席した研究班班員: 鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 猪山和美 野本伊織

小川弘美 並木幸子 稲山拓司

研修内容の概要・感想など

本研修会は、「知らなきゃ損!?!」というメインタイトルで例年技術的な内容に着目し、これから病理細胞診検査に携わる新人技師を主な対象として開催している。今回で12回目となる研修会のテーマは「新人さん必見! 標本作製と細胞診染色~」であり、小川氏と野本氏による細胞診の基礎的な事項について講演が行われた。

講演1では、小川氏が「検体処理と標本作製のまとめ」と題して講演を行った。体腔液や穿刺吸引検体を中心とした細胞診標本作製のポイントや標本作製過程におけるエラーやピットフォールについて解説があった。泌尿器検体におけるLBC PREP™法についての紹介では、参加者から自施設のLBC法の実施状況や方法に関する質問もあり活発な討議がなされた。中でも標本作製における重要なポイントとして、自身で作製した標本を鏡検し都度評価していくことが標本作製の上達するポイントであり、これを習慣付けることが重要であるとのことであった。

講演2では、野本氏が「細胞診染色のいろは」と題して、細胞診染色についての講演が行われた。染色の基本となる通常染色 (Papanicolaou染色・Giemsa染色) や特殊染色については、原理から精度管理・トラブルシューティングまで幅広い説明があった。特に、Papanicolaou染色の精度管理は、各施設で実施状況や方法などが異なるため難しい現状にあるが、野本氏による自施設での実施方法の紹介は役立つ内容となった。講演全体を通して、繰り返されていた「染色はやさしく丁寧に」「精度管理は施設と自分」というポイントに注意し、染色業務にあたるのが重要であるとのことであった。

これから細胞検査業務に携わる技師の方には、今回示された心構えと作製・染色のポイントを基に日々の研鑽を積んでいただきたいと思う。

(文責: 稲山拓司)

テーマ **基礎から学ぶ、一般検査のトピックス**

主催 一般検査研究班

実施日時: 2023年5月24日 19時00分~20時00分

会 場: Web開催 教科・点数: 基礎教科-20点

講 師 1: 平尾 明日香 (栄研化学株式会社)

講 師 2: 阿部 雅仁 (栄研化学株式会社)

参加人数: 会員297名

出席した研究班班員: 藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹

小針奈穂美 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回もWebでの研修会となった。一般検査では、年度初めの研修会は、初心者を対象とした基礎的な内容を主体として企画し、開催している。今回は、平尾氏と阿部氏を講師に、試験紙法と便検査に関する基礎的な内容に、トピックスを交えての内容で開催した。

平尾氏からは、尿試験紙検査における基礎知識について講演があった。精度の高い尿検査結果を得るためには、正しい採尿方法で採取した尿検体でなければならない。しかし、尿検体の多くは、患者自身に採尿していただくため、正しい採尿指導が必要となる。多くの施設では、採尿室にポスターを掲示し、中間尿の採取を啓発している。尿試験紙においては、湿気や温度による影響を受けるため取扱いに注意が必要である。また、アスコルビン酸による影響やビリルビンやケトン体が偽反応を呈する薬剤について、またその確認方法についての解説もあった。尿の色調が試験紙の呈色に影響する偽反応で最も多いとされるため、検査を実施するうえでは、尿の外観をよく観察し、また必要時には、電子カルテなどで患者の投薬情報などを知ることも重要であると感じた。試験紙の取扱い、さまざまな偽反応を呈することを理解したうえで検査を実施することが、重要であると再認識した。

阿部氏からは、NST領域における便潜血検査の臨床的意義と検査の活用について講演があった。NST（栄養サポートチーム）は、定期的なラウンドによる病状の観察や詳細な検査を行うことで、主観的および客観的に患者の栄養状態を評価し、必要な栄養量と投与ルートを立案・実行することにより、患者の病態回復に大きく貢献している。低栄養状態は、褥瘡の重要な障害因子であるため、褥瘡の改善には低栄養状態の改善が必須である。また、酸素供給量の低下を示す貧血の原因の多くは消化管出血であり、便潜血検査の陽性者の中で大腸癌が占める割合は4%と比較的高いことがわかった。さらに、腫瘍の大きさや深達度は、便ヘモグロビン濃度に比例することから、便ヘモグロビン検査の自動化と定量値での報告が推奨されるとのことであった。しかし、便潜血検査におけるカットオフ値の標準化がなされておらず、各施設での設定が統一されていないのが現状である。早い段階での標準化の必要性を感じた。また、近年、便潜血検査と同時にカルプロテクチンなどのバイオマーカーを測定することが多い。今後、炎症性腸炎の診断、治療にも大きく貢献することが期待でき、その重要性を再認識することができた。

(文責：室谷明子)

テーマ 1 から学ぼう！ 自動分析装置を使用した比色分析

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2023年5月25日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 601号室 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：比色分析の基礎

講師 1：巖崎 達矢（東松山医師会病院）

講演 2：反応タイムコースの活用法

講師 2：松重 萌衣（株式会社TCL 戸田中央臨床検査研究所）

参加人数：会員40名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 巖崎達矢 石川純也 廣瀬良磨
杉村楓 松重萌衣 福島渉

研修内容の概要・感想など

臨床化学検査研究班では、今年度最初の研修会となる「1から学ぼう！自動分析装置を使用した比色分析」を開催した。自動分析装置の比色分析や反応タイムコースの基礎を学ぶ初心者

向けの研修会として企画したところ、40名の参加があった。

巖崎氏の「比色分析の基礎」の前半は、Lambert-Beerの法則から始まり、吸光度と相対誤差の関係、二波長測光や2ポイント法がどのようにして吸光度と相対誤差を低下させているのかという内容であった。吸光度は、モル吸光係数・血清量・血清中濃度の積に比例し、最終液量に反比例するため、血清量を増加させることで吸光度を大きくすることができる。また、自動分析装置の分析には相対誤差の小さい吸光度範囲が使用されている。2ポイント法は色調や内因性共存物質の回避が可能で、二波長法は光量のズレの補正をしている。自動分析装置は2ポイント法と二波長法を組み合わせることによって吸光度の相対誤差を低下させている。後半は、相対分析や検量係数、検量係数と測定感度の関係についてという内容であった。検量係数は標準液に対する吸光度の比率である。検量係数が小さいほどバラツキは小さくなり、測定感度は検量係数に反比例する。低濃度域を求めるクレアチニンの測定範囲とK-factorを例にとり、検量係数を小さくするためには血清量を増やすことの理解を深めた。自動分析装置の分析条件は、測定感度や直線性などを考慮して設定されている。

松重氏の「反応タイムコースの活用法」の内容は、自動分析装置の測定の流れに始まり、各測定項目の呈色反応、反応タイムコースについてであった。タイムコースは、反応過程を吸光度変化として目視で捉えることができるため、異常が起きた際に有用である。タイムコースにはエンドポイント法とレート法の2種類があり、エンドポイント法は濃度測定に使用され、吸光度が時間とともに変化し、最終的に一定値に達し、最終吸光度の値から濃度を求めている。レート法は主に酵素活性測定に使用されており、検体と試薬が反応し、一定速度で進行しているときの単位時間当たりの吸光度変化量から酵素活性を求めている。実際の反応タイムコースの異常を例にとり、どんな原因により異常なタイムコースとなっているのか反応タイムコースの活用事例を学んだ。各検査項目の正常のタイムコースを覚えておくことで、異常反応の検出に役立つ。

今回の2つの講演で、自動分析装置の測定原理や干渉する物質の影響をどのように除去しているか、タイムコースとはどのようなものでありタイムコースを確認することの目的を良く理解することができた。初心者向けの研修会ということであったが、奥深い内容も含まれていたため、初心者はもちろんのこと復習を兼ねての中級者や上級者にとっても学ぶことの多かった研修会であったことと思う。

(文責：福島渉)

テーマ **こんな時、どうすればいいの？** **輸血検査の日々の不安を解消しよう！**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2023年5月25日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 教科・点数：基礎教科－20点

講 演 1：令和4年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告（輸血）

講 師 1：渡邊 一儀（獨協医科大学埼玉医療センター）

講 演 2：日当直に役立つ輸血検査

講 師 2：岸 健太（医療法人社団武蔵野会 TMGあさか医療センター）

参加人数：会員35名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子 岩崎篤史
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

今回は令和5年度第1回目の研修会であり、さらに2年3ヶ月ぶりの現地開催の研修会であった。毎年恒例である、埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と新人及び日当直帯でのみ輸血業務に携わる技師向けに「輸血検査の基礎」について講演を行った。

最初に渡邊氏より埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業の報告が行われた。

精度管理事業の一連の流れ（試料の内容設定から評価結果の集計に至るまで）についての説明から始まり、参加施設数、配布試料の内容、検査方法の推移、それぞれの試料の結果及び評価について報告があった。

血液型検査は、単にプラスかマイナスを判定するだけではなく、凝集像より反応強度を正しく分類し、その結果から正しい判定ができるか否かが重要である。

しかしながら、正しい判定ができていない施設（C判定）、さらに結果の入力間違いや総合判定が誤判定であった施設（D判定）が前年度より増加していた。近年、試験管法から自動分析機へシフトする傾向にあるが、試験管法で検査を実施している施設が多いのが現状である。

それ故に、日常業務を行うにあたり正しい手技を身につけ正しい判定ができる知識を習得する必要があると感じた。講演の最後には、「精度管理」について簡潔に分かりやすい説明があった。

岸氏より、まず日当直帯で行う輸血検査（血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験）の基本的な手技についての講義があった。その後、実際に日当直帯で遭遇しやすい6症例を挙げ、それぞれの検査結果の解釈、異常反応を呈したときの対応及び臨床へ報告する内容等について詳しい解説があった。

今回の講演が、日々の業務の見直しを検討するきっかけとなること、また輸血業務に不慣れた技師の不安が少しでも解消され、心に余裕を持って日常業務を遂行できることを期待したい。

（文責：久保居由紀子）

テーマ 抗酸菌について

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2023年5月26日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：富井 貴之（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員134名

出席した研究班班員：富井貴之 鈴木勤 鈴木由美子 吉田翔平

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は抗酸菌感染症の現状と抗酸菌の分類や検査についての内容であった。

2020年までの日本は結核罹患率（人口10万人対）が10.0を下回ることはない結核中蔓延国であったが、2021年の結核罹患率は9.2と10.0を下回った。統計を開始してから初めて10.0未満となり、先進国の中でも結核罹患率の高かった日本が、ついに低蔓延国の仲間入りを果たしたのである。しかし、2020年以降の結核罹患率の低下については2019年末から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響があったと考えられ、病院・保健所業務のひっ迫や感染症対策による行動制限などにより、受診の遅れや結核の定期健診・接触者検診の実施に影響した可能性がある。結核罹患率が再び10.0を超えることも懸念されており、2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類に移行したいま、今後の結核菌感染症の動向に改めて注意が必要だと感じた。

後半では抗酸菌の分類（結核菌群・非結核性抗酸菌群）や抗酸菌の検査についての講演があった。抗酸菌の検査として、塗抹検査、培養検査、核酸増幅検査、同定検査、薬剤感受性検査などがある。近年では200種以上もの菌種がいる非結核性抗酸菌による感染症の増加も目立つため、各検査について正しい知識を身につけ、特性を理解し、見逃すことなく臨床へ適切な報告ができるようにする必要がある。また、抗酸菌の検査を自施設で全て実施できる施設は少なく、一部または全ての検査を衛生研究所（検査センター）に委託している施設が大多数であるが、委託している施設は検体情報などについて衛生研究所とコミュニケーションをとることも重要であるとアドバイスがあった。

今回の研修会は抗酸菌感染症の現状を知り、抗酸菌検査の基礎的な内容を学ぶことができる機会であった。一般細菌検査と比較して抗酸菌検査に苦手意識を持つ参加者もいると思われるが、研修会で得たことを日々の業務に少しでも活かせることに期待したい。

（文責：吉田翔平）

テーマ **輸血検査の各検査法を正しく理解しましょう！**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2023年6月8日 19時00分～20時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：マイクロプレート法の原理と特徴について

講 師 1：八木 良仁（株式会社イムコア）

講 演 2：カラム凝集法の原理と特徴について

講 師 2：齋藤 大輔（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社）

参加人数：会員102名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子 岩崎篤史
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

今回は「輸血検査の各検査法を正しく理解しましょう！」と題して、各検査法の原理と特徴について理解を深める目的で研修会を行った。

八木氏の講演ではマイクロプレート法における測定原理の解説から始まり、実際の検査プロセスおよび他の検査法と比較した場合の結果の違いについて丁寧な説明があった。マイクロプレート法における血液型検査は、試験管法と比較すると弱い反応が検出しにくい、また亜型などでみられる部分凝集は機械的な判定が困難な場合があるといった点で異なる。不規則抗体・交差適合試験・DATは、固相法を原理としてIgG型不規則抗体の検出感度に優れている。さらに、臨床的意義が低いとされているIgM型抗体や冷式抗体を検出しにくい特徴がある。よって、日常検査の中で度々遭遇する冷式抗体による反応が検出されにくくなるため、業務の効率化につながることも期待できる。検査法が異なると得られる結果も変わってくるのがわかり、各検査法の特徴を正しく理解しておく必要があると感じた。

齋藤氏の講演ではカラム凝集法の基本的な原理に加えて、検査の際の留意点と予期せぬ反応について解説があった。フィルター効果によって分離された赤血球を効率よく判定するためにカラムの形状が楕円形になっていることや検出感度を上げるために自動分析装置内で二段階の遠心が行われていることなど検査ステップの中にある工夫も知ることができた。カラム凝集法の検査手技ではエアギャップを作ることが特に重要で抗グロブリン試薬の中和防止、効率的な混和・加温、異種凝集素による偽陽性防止に大きく関わっていることがわかった。また、検

査の際にみられる予期せぬ反応として、手技・試薬に起因したものと検体に起因したものについて紹介され、日常検査で遭遇した際に役立つものであった。

今回の研修会で学んだ検査法の原理や特徴、さらには検査の限界も理解した上で日々の検査を実施していただきたい。
(文責：廣田渉)

テーマ 2023年CLSIドキュメントの変更点について

主催 微生物検査研究班

実施日時：2023年6月16日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講 師：原 みゆき (バックマン・コールター株式会社)

参加人数：会員49名 賛助会員4名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 岸井こずゑ 今井英美 佐々木真一 大塚聖也
渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

今回は、「2023年CLSIドキュメントの変更点」について原氏を講師にWebにて開催した。

導入として、CLSIドキュメントシリーズのM02はディスク法、M07はMIC法、M100はディスク法およびMIC法、M45は分離頻度が低く栄養要求性の高い菌種について記載されていることが紹介された。次にM100 ED33のTier 1においてTier表記が使用されるようになったことに関する解説があった。Tierは階層という意味を持ち、Tier 1では菌グループごとに、薬剤感受性検査を実施、報告する抗菌薬が優先度順にTier 1～4の4グループに分けられたカスケード構成となっている。すなわち各菌種における重要度の高い抗菌薬から薬剤感受性検査を実施することが理想とされている。臨床では1患者から複数菌種が分離される場合があるが、その場合も1菌種ごとにカスケードを考えていくことが必要である。その他、Table 2における新たな表記法：(U)_b, (Inv.), *についての解説や、*Pseudomonas aeruginosa*におけるアミノグリコシド系抗菌薬に関する追加コメントについての解説があった。

後半は、自動分析装置における精度管理についての話題が提供された。平成30年施行の医療法の一部改正に伴い、「病院等において検体検査を行う場合の内部精度管理の実施」が努力義務化されたこともあり、微生物同定感受性分析装置における精度管理についてメーカーへの問い合わせが増えている。以前は20-30日プランを採用している施設が多かったが、最近では、各標準菌株の再現性について3回測定を5日間実施するWeeklyプラン(3回×5日間 計15回測定)がCLSIより推奨され、こちらに変更する施設が増えているとの報告があった。

CLSIのドキュメントは毎年更新されており、最新版はホームページでも公開されている。本研修会の内容を踏まえてドキュメントを読むとより理解が深まると思われた。

(文責：岸井こずゑ)

**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第4回 理事会議事録**

日時：令和5年7月13日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 長澤

松寄 阿部 松尾 佐瀬 三木

網野 塚原 神嶋 伊藤(恵)

伊藤(隆) 石井 神戸 小林

長岡 久保田 長谷川

(Zoomにて参加) 濱本

(監事) 遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和5年6月8日～令和5年7月12日)

6月8日(木) 令和5年度第3回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、
神戸、石井、小林、遠藤

6月8日(木) 令和5年度三役部長会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、塚原、阿部、長岡、
神戸、石井

6月9日(金) 令和5年度定時会員総会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、久保田、
長谷川、神戸、石井、小林、遠藤

6月10日(土) 日臨技執行理事会：神山

6月10日(土) 令和5年度第1回養成校連絡協議
会会議：猪浦、塚原

6月12日(月) 日臨技精度保証サポートWG委員
会：神山

6月15日(木) 第23回わらび健康まつり第1回実
行委員会：塚原

6月15日(木) 第51回埼玉県医学検査学会実行委
員会：三木、佐瀬

6月16日(金) インボイス制度に関する説明会：
猪浦、神戸

6月18日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉
015)：猪浦、山口、松寄、神戸、
阿部、長岡、伊藤(恵)、佐瀬

6月24日(土) 日臨技理事会：神山

6月24日(土) 日臨技定時会員総会：神山、猪浦

6月24日(土) 日臨技70周年・法人化60周年記念
式典：神山、松岡、猪浦

6月25日(日) 日臨技関甲信支部幹事会：
神山、松岡

6月25日(日) 一都八県会長会議：神山、松岡

6月26日(月) 日臨技品質・精度保証委員会：
神山

6月26日(月) 埼玉県精度管理打合せ
(医療整備課)：神山

6月26日(月) 第18回深谷市福祉健康まつり第1
回実行委員会：塚原

6月29日(木) 埼玉県医師会精度管理会議：
神山、松岡、山口、神戸

7月7日(金) 日臨技全国学術部門長会議：神山

7月8日(土) 日臨技執行理事会：神山

7月8日(土) 日臨技データ解析WG説明会：
神山

II. 報告事項

1 事務局

1) 6月8日(木) 令和5年度三役部長会を開催
した。(別紙資料1)

2) 6月12日(月) 第30回埼玉糖尿教育セミナー
の後援承諾を回答した。

3) 6月16日(金) インボイス制度に関する説明
会に猪浦副会長と神戸会計部長が参加した。
(別紙資料2)

4) 6月29日(木) 公益インフォメーションに令
和4年度事業報告を提出した。

- 5) だよりWeb化に伴い、(株)石井印刷と取引基本契約書を交わした。
- 6) 霞が関子供見学デーの派遣に神戸考裕氏、北川裕太郎氏を日臨技に推薦した。
- ## 2 総務部
- 1) 6月18日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県015)を開催した。(別紙資料3)
- 2) 7月15日(土)埼臨技だより530号発行予定。本号よりWeb化となる。
- 3) 7月16日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県016)を開催予定。運営責任者は猪浦副会長。
- 4) 11月19日(日)のタスクシフト指定講習会(埼玉県020)を11月23日(木)に変更する。
- 5) 研究班クエスタントアンケートとマニュアルを学術部より各研究班へ配布した。アンケートの質問内容を変更する場合は理事会承認とする。
- 6) 埼臨技養成校連絡協議会に現在、総務部で検討中の卒業教育施設認定について意見を伺った。
- 7) 第51回埼玉県医学検査学会より協賛、演題登録について理事会へ協力要請があった。
- ## 3 事業部
- 1) 6月7日(水)令和5年度第1回青年部委員会会議を開催した。(別紙資料4)
- 2) 6月10日(土)令和5年度第1回養成校連絡協議会会議を開催した。(別紙資料5)
- 3) 6月15日(木)第23回わらび健康まつり第1回実行委員会へ参加した。(別紙資料6)
- 4) 6月26日(月)第18回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会へ参加した。(別紙資料7)
- ## 4 学術部
- 1) ソニックシティビルの備品常駐再開を了承していただいた。常駐パソコン選定終了後、研究班へ周知予定。
- 2) 7月1日(土)「生涯教育研修プログラム8月・9月分」の日臨技システム行事登録作業を完了した。
- 3) 7月15日(土)埼臨技会誌Vol.70 No.1発行予定。
- 4) 埼臨技会誌投稿原稿テンプレートについて投稿規程の内容に沿って23字×20行から20字×20行へ修正した。
- ## 5 精度保証部 特になし
- ## 6 会計部
- 1) 令和5年度正会員費94名470,000円、入会金71名71,000円、再入会金1名1,000円、合計542,000円の入金があった。
- 2) 石井印刷に埼臨技だより529号印刷代125,488円を支払った。
- ## 7 精度管理委員会 特になし
- ## 8 一都八県会長会議
- 1) 6月25日(日)一都八県会長会議が開催された。(別紙資料8)
- ## 9 日臨技関甲信支部
- 1) 6月25日(日)日臨技関甲信支部幹事会が開催された。
- ## 10 日臨技
- 1) 6月24日(土)日臨技定時会員総会、創立70周年・法人化60周年記念式典が開催された。(別紙資料9)
- ## 11 第51回埼玉県医学検査学会
- 1) 6月15日(木)第9回実行委員会を開催した。(別紙資料10)
- 2) 学会演題募集期間を7月31日(月)正午まで延期することとなった。
- ## Ⅲ. 承認事項
- ### 1 事務局
- 1) 会員動向(令和5年度分)
令和5年7月1日現在
会員数 3,587名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 226名)
賛助会員 68社[令和4年度 71社]
承認された。
- 2) 事務員夏期賞与について
事務員夏季賞与を例年通りにて行いたい。
上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。
- ### 2 総務部 特になし
- ### 3 事業部
- 1) 事業日程変更について
- (1) 検査室管理運営委員会研修会の開催月を9月から10月へ変更。
- (2) 青年部他県交流会の開催月を8月予定から延期(他県技師会青年部調整中の

ため開催月未定)

上記の件について、塚原晃事業部部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

1) 研修会事業の変更について

(1) 日程変更

1) 輸血検査研究班10月開催予定の「緊急輸血(大量・産科輸血)」研修会を11月へ変更。

2) 輸血検査研究班11月開催予定の「アルブミン製剤の使用指針と管理について」研修会を10月へ変更。

(2) 会場変更

1) 一般検査研究班11月開催予定の「尿沈渣を極める④～円柱、その他編」研修会をWebから現地へ変更

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

2) 2023年度版研究班運営マニュアル(フォルダ)改訂について (事前配布資料)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) Squareの運用について (別紙資料11)

上記の件について、神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

7 精度管理委員会

1) 埼玉県医師会精度管理調査について

(1) 生理部門、CD-ROMサーベイ、県医師会精度管理への移行について

(2) 生理部門、画像サーベイ実施における監修ドクターについて

上記の件について、山口純也精度管理委員長より発言があり、審議の結果、承認された。

8 第51回埼玉県医学検査学会 特になし

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日より「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」から「5類感染症」になりましたが、第9波が到来し、皆様の現場も新たな感染対策・検査体制構築に苦慮されているのではないのでしょうか。そしてこのコロナ禍で変化した「コミュニケーションのとり方」にも、XYZ世代それぞれが悩み、日々業務を行っていることと思います。その際「心に寄り添う」ことも必要ですが、人の心に寄り添うには、お互いの価値観を知り認め合いつつ、頼りすぎることなく「自分を高める」ことも必要です(検査の腕?管理の腕?趣味の腕?)。また寄り添うには相手、そして寄り添う「場」も必要です。家族・職場の同僚・友人が隣にいることを当たり前だと思わず「心に寄り添い合える」ような、「感謝」に溢れた温かな職場を、埼玉県全ての臨床検査室で築いていきましょう。

(塚原 記)

